



藤城 弘樹

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学

今月、レビー小体型認知症（DLB）の診断基準が改定され、レム睡眠行動障害（RBD）が示唆的特徴から、第4の中核的特徴に格上げされました。

また、基底核ドパミントランスポーターの取り込み低下、MIBG心筋シンチグラフィの取り込み低下、睡眠ポリグラフ検査によるREM sleep without atoniaの3項目が指標的バイオマーカーと定義されました。

本講演では、DLBの前駆状態における指標的バイオマーカーの経時的変化について考察させていただきます。